

**V22b 県立ぐんま天文台の概要 - 150 cm 光学赤外線望遠鏡 -**

濤崎智佳、橋本修、中道晶香、浜根寿彦、久保田幸雄、倉田巧、下田明英、淡島静男、清水実、古在由秀 (県立ぐんま天文台)、西村徹郎 (国立天文台)

群馬県人口 200 万人記念事業のひとつとして、一般から研究者まで利用可能な公開型研究施設「県立ぐんま天文台」の建設計画が進んでいる。平成 9 年 4 月に台長及び研究員 4 名が着任し、準備室が発足した。ぐんま天文台のサイトは、群馬県吾妻郡高山村子持山西側張り出し尾根の山頂部 (標高 860 m)。平成 7 年 10 月から現在までの現地の晴天率は 48 % である。施設建設はこの 7 月に造成工事を開始することになっており、平成 10 年度末の完成、平成 11 年度のオープンを目標としている。観測装置は 150 cm の光学赤外線望遠鏡、60 cm 光学望遠鏡、小望遠鏡群 (15 cm 屈折望遠鏡と 25 - 30 cm の広視野写真儀を同架)、及び太陽望遠鏡を設置する。メインである 150 cm 光学赤外線望遠鏡は平成 9 年 3 月に完成した (製作は三菱電機)。150 cm 望遠鏡は反射式経緯台、合成 F 12.2 の RC 光学系で、観測波長域は可視から K バンドまでをカバーしており、国立天文台三鷹の赤外シュミレータをプロトタイプとしている。観測焦点はナスミス × 2、ベントカセグレン × 2、カセグレンの計 5 つを持つ。各焦点の観測装置は、(1) ナスミス A; 一般観望用接眼部、(2) ナスミス B; 大型分光器 (未定) (3) ベントカセグレン A; 可視撮像器 (2048 × 2048 pixel、視野約 10′)、(4) ベントカセグレン B; 未定、(5) カセグレン; 撮像・分光・偏光観測可能な近赤外線カメラ (HAWAI array、1024 × 1024 pixel、視野 3.6′)。現在これらの観測装置・制御系等について詳細を検討中である。今回の講演では 150 cm 望遠鏡の詳細とこれらの観測装置について報告する。